

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 26 日

仕事の内容	中央図書館事業					
担当部署・課長名	中央図書館	課	事業	係	課長名	當摩 弘

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。		施策番号	1 - 2	-
【施策名】生涯学習の充実		総合計画書 (ページ)	35	

予算名	款 10	教育費	項 4	社会教育費	目 3	図書館費	事業 2	中央図書館事業費
-----	------	-----	-----	-------	-----	------	------	----------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 東大和市立図書館利用対象者	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 東大和市民
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 図書等に親しみ、また必要な情報を図書館で得ることができる。	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 利用登録者数/人口
	③ そのために何をしましたか。 ①おはなし会等の行事 ②HP、図書館だより等の広報(PR) ③社会教育団体との共催事業の実施(講座・講演会等)	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①実施回数 ②更新(発行)回数 ③実施回数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	85,857	85,698	85,337	
	成果指標	②の数値	%	43	43	41	
	目 標	②の目標値					
		目標値設定の考え方					
	活動指標	③の数値		①48 ②1 ③3	①46 ②1 ③2	①48 ②1 ③1	

3 経費	事業費(実績)		円	29,042,454	28,258,939	27,404,631	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	16,505,756	17,679,546	14,252,429	
		特定財源	円	12,536,698	10,579,393	13,152,202	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	10.0	10.0	10.0	
		所要人数(再任用)	人	1.0	1.0	1.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	82,670,000	82,530,000	82,440,000	
	職員人件費(再任用)	円	2,974,000	3,020,000	3,892,000		
	事業費+人件費	円	114,686,454	113,808,939	113,736,631		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	
	昭和59年4月15日、東大和市立中央図書館開館 図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般の公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資する(「図書館法」第二条)	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 ・利用者要求の多様化 ・地区館(桜が丘、清原の整備) ・インターネットを利用したサービス ・近隣市との相互利用	

仕 事 の 内 容	中央図書館事業			
担当部署・課長名	中央図書館	課	事業	係 課長名 當摩 弘

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について
	<p>(要望) ・自習スペースを作ってほしい。 ・開館日・開館時間の増。レファレンス室の夜間利用の再開。会議室等の夜間利用。 ・駅前の返却ポストを24時間使えるようにしてほしい。</p> <p>(実態・意識) ・高齢者の利用が多い。 ・親子連れの利用も多い。</p>

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。(複数回答可)	
	取り組んだ	取組手法 ①共催(講演会等) ③事業協力(広報等) ⑥情報提供・情報交換(定例会への参加) ⑦場の提供(活動場所・物品の保管場所等) 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体:) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 定期的な会議以外にも、市民の活動の場にも関わりをもつ。 (活動の発表の場への職員の参加、成果物の活用等)	

7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容 職員数の不足 職員の経験・知識の蓄積不足
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 職員の研修 ボランティア育成
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 研修にかかる時間がとりにくい ボランティアの継続及び新規育成

8 今後の方向性	(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」)の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など 職員研修の方法の検討 担当を複数でローテーションをし、経験と知識が承継されるようにする。 ボランティア育成の継続
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 外部研修の活用 ボランティア団体等の協力団体、協力者の発掘
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。

成果	成果を向上させる。	経費	仕事の経費を増加させる。
----	-----------	----	--------------